

■ 鮎河・青土ダム桜概略本数 ■



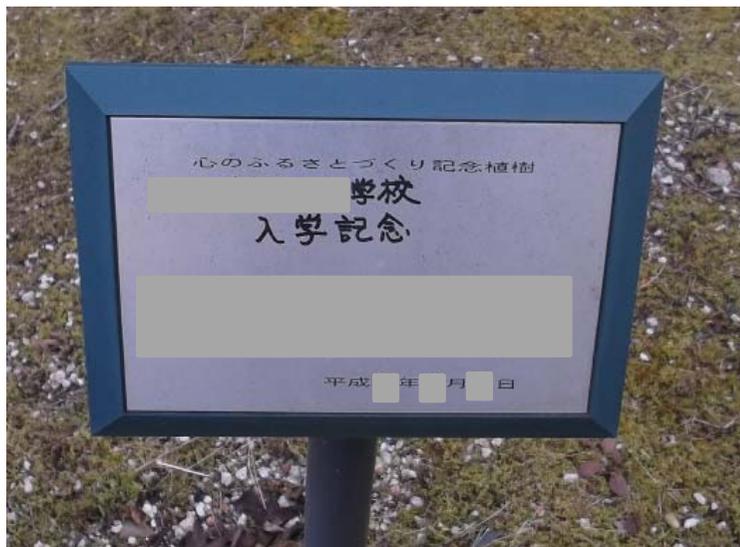
ゾーン	地先	本数	特筆すべき植樹事業
A	青土ダム〔青土地先、一部鮎河〕	約400本	心のふるさとづくり記念植樹（通称「町民一万本植樹」）
B	〃〔鮎河地先〕	約600本	心のふるさとづくり記念植樹（通称「町民一万本植樹」） 宝くじ桜
C	鮎河集落内	約600本（700本との話もある）	鮎河小学校入学・卒業記念植樹
D	〃〔うぐい川兩岸〕	約200本〔Cの内数〕	三上六所神社屋根葺替工事竣工記念植樹（S32年20本植樹、鮎河で最初の桜の植樹） 植樹鮎河小学校入学・卒業記念植樹

青土ダム〔A+B〕 約1,000本

鮎河地先〔B+C〕 約1,200本（or 約1,300本）

心のふるさとづくり記念植樹

青土ダムの完成を契機に、ダム周辺を緑と花で覆いつくそうと始まった事業で、平成元年度(平成元年4月)から平成16年度(平成17年3月)にかけて毎年度1回実施された。土山町民(約1万人)に1人に1本の植樹を目標としていたことから、「町民一万本植樹」とも称されていた。事業の目的は緑化意識の向上と景観の美化は当然であるが、加えて、参加者が自身の何がしかを記念して自らの手で植樹することにより、全町民の心のよりどころとなる空間をつくることも目的としていた。青土ダム周辺だけでは1万本の植樹は困難なため、あいの丘文化公園にも植樹された。



宝くじ桜

(公財)日本さくらの会が、昭和42年から宝くじの社会貢献広報事業の助成を受けて行っている事業で全国に平成24年度までに約140万本が配布されており、土山町でも平成元年12月に青土ダムブルーリバーパークに配布植樹されている。

